

2020 年度 大阪大学蛋白質研究所客員フェロー募集要項

大阪大学蛋白質研究所では、所内の研究室と共同して研究を進める意欲的な研究者を客員フェローとして2名募集いたします。客員フェローには、研究費を配分いたします。また、客員教授、客員准教授等の称号を付与します。

1. 研究分野

蛋白質研究所ないし附属蛋白質解析先端研究センターの各研究室と関連する研究分野
*各研究室の主要研究課題については、下記ホームページをご参照下さい。

2. 資格

国公立大学、公的研究機関、および民間の研究所等に所属する研究者
*2020 年度に本務での研究職に就いておられることを要します。
(非常勤勤務の方も可。ただし学生は不可)

3. 任期

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間。
蛋白質研究所に年間 10 日以上来所し、研究を行うことを基本とします。

4. 研究費

本研究所における研究費として、50 万円程度を限度に配分します。また、来所に要する旅費（交通費、宿泊費および日当）を支給します。

5. 応募方法

【応募書類】

申請者は、申し込み前に研究課題、研究内容、研究費、来所予定期間とスケジュール等について、当該研究部門・センターの担当教員と十分な打ち合わせを行った上、下記の書類を提出して下さい。

(1) 2020 年度大阪大学蛋白質研究所客員フェロー 申請書

(2) 遺伝子組換え実験従事者に係る誓約書

(3) 履歴書

(4) 主な業績のリスト

* (1)～(3)については指定様式あり。下記の拠点ホームページよりダウンロードして下さい。

* (2)については、該当の場合のみ提出して下さい。詳細は記 10. を参照のこと。

* (4)については任意様式とします。

【提出期限】

2019 年 12 月 2 日（月）〔必着〕

【提出先および問い合わせ先】

大阪大学蛋白質研究所会計係（拠点プロジェクト班）

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 3-2

TEL06-6879-4323 E-mail: tanpakuken-kyoten@office.osaka-u.ac.jp

*「客員フェロー申請書在中」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。

【大阪大学蛋白質研究所共同利用・共同研究拠点ホームページ URL】

<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/kyoten>

6. 研究内容等についての問い合わせ先

蛋白質研究所「共同利用・共同研究」委員会委員長

分子創製学研究室 教授 高木 淳一 E-mail: takagi@protein.osaka-u.ac.jp

7. 採否

蛋白質研究所専門委員会の議を経て所長が採否を決定し、2020 年 3 月初旬頃に申請者に通知します。

8. 研究成果報告書

研究期間の終了後 1 ヶ月以内に、下記の書類を提出して下さい。

ご提出いただいた書類のうち、【2】については、2021 年度中に拠点ホームページにて公開予定です。

【1】 2020 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業 (1) 研究成果報告書

【2】 2020 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業 (2) 研究成果の概要

*上記の様式については、拠点ホームページに掲載しております。

9. 学術論文での本研究による成果の発表

本課題で得られた成果に基づいて学術論文として出版された場合は、大阪大学蛋白質研究所客員フェロー制度を利用したことを明記して下さい。

なお、記載にあたっては、別添「拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果として発表される論文について」を参照願います。

10. その他

*本研究所における共同研究で、放射線業務に従事する場合は、所属機関の放射線取扱主任者による放射線業務従事者証明書を提出して下さい。

*本研究所における共同研究で、遺伝子組換え実験に従事する場合は、所属機関の安全主任者による誓約書（蛋白質研究所の所定様式）を提出して下さい。

拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果として発表される論文について

◆謝辞 Acknowledgement について◆

本拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果に基づいて論文を発表される場合は、その旨を以下の【例】のように明記して下さい。

(1) 共同研究員、国際共同研究、NMR 共同利用研究、クライオ電顕共同利用研究、客員フェロー

●共同研究員【例】

This work was performed in part under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, CR-○○-●●. ※○○は西暦年の下2桁 ●●は別添の部門・センター番号

● 国際共同研究【例】

This work was performed in part under the International Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, ICR-○○-●●.

●NMR 共同利用研究【例】

This work was performed in part using the NMR spectrometers with the ultra-high magnetic fields under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, NMRCR-○○-●●.

●クライオ電子顕微鏡共同利用研究【例】

This work was performed in part using the cryoelectron microscope under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, CEMCR-○○-●●.

●客員フェロー【例】

This work was performed in part under the Collaborative Research Program as the Visiting Fellow of Institute for Protein Research, Osaka University, VFCR-○○-●●.

※文末の下線を付した箇所を下記ルールに従って適宜記入すること。

「事業名を示すアルファベット - 年度 - 部門・センター番号」

①

②

③

- ①共同研究員の場合は CR、国際共同研究の場合は ICR、NMR の場合は NMRCR、クライオ電顕の場合は CEMCR、客員フェローの場合は VF CR と記入。(CR は Collaborative Research の略、I は International の略、CEM は CryoElectron Microscope の略、VF は Visiting Fellow の略)
- ②西暦年の下 2 桁を記入。なお、この西暦年とは、原則として“共同研究を行った年”とするが、複数年に亘る研究による成果(論文業績)についてはこの限りではなく、表記を著者に委ねる。
- ③蛋白質研究所の 4 部門・1 センターについて別途あらかじめ定めた番号*を記入。
*番号一覧については次頁に記載。

(2) ビームライン共同利用研究

●ビームライン共同利用研究【例】

This work was performed using a synchrotron beamline BL44XU at SPring-8 under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University. Diffraction data were collected at the Osaka University beamline BL44XU at SPring-8 (Harima, Japan) (Proposal No. 20〇〇AXXXX, 20〇〇BXXXX, and 20〇〇AXXXX). ※20〇〇の〇〇は西暦年の下2桁

※後半の文章にある 20〇〇AXXXX というのが半年ごとにつけられる SPring-8 課題番号
SPring-8 課題番号は、

西暦・期（AまたはB）・蛋白研ビーライン共同利用研究課題番号となっている。
また、成果に関わる実験に利用した課題番号の全てを記入すること。

＊番号一覧

番号	部門・センター	研究室、グループ
01	蛋白質化学研究部門 Division of Protein Chemistry	●蛋白質有機化学（北條裕信教授） Laboratory of Protein Organic Chemistry Prof. HOJO, Hironobu ●細胞システム（岡田眞里子教授） Laboratory of Cell Systems Prof. OKADA, Mariko ●蛋白質ナノ科学（原田慶恵教授） Laboratory of Nanobiology Prof. HARADA, Yoshie ●オルガネラバイオロジー（中井正人准教授） Laboratory of Organelle Biology Associate Prof. NAKAI, Masato
02	蛋白質構造生物学研究部門 Division of Protein Structural Biology	●蛋白質構造形成（後藤祐児教授） Laboratory of Protein Folding Prof. GOTO, Yuji ●機能構造計測学（藤原敏道教授） Laboratory of Molecular Biophysics Prof. FUJIWARA, Toshimichi ●蛋白質結晶学（栗栖源嗣教授） Laboratory of Protein Crystallography Prof. KURISU, Genji ●電子線構造生物学（加藤貴之教授） Laboratory of CryoEM Structural Biology Prof. KATO, Takayuki ●膜蛋白質化学（三間穰治准教授） Laboratory of Membrane Protein Chemistry Associate Prof. MIMA, Joji
03	蛋白質高次機能学研究部門 Division of Integrated Protein Functions	●分子発生学（古川貴久教授） Laboratory for Molecular and Developmental Biology: Prof. FURUKAWA, Takahisa ●ゲノムー染色体機能（篠原 彰教授） Laboratory of Genome and Chromosome Functions Prof. SHINOHARA, Akira ●高次脳機能学（疋田貴俊教授） Laboratory for Advanced Brain Functions Prof. HIKIDA, Takatoshi ●細胞核動態情報 Laboratory for Nuclear Dynamics ●体内環境統合蛋白質（奥村宣明准教授） Laboratory of Homeostatic Integration Associate Prof. OKUMURA, Nobuaki
04	多階層蛋白質統合研究部門 Division of Multiscale Integrative Protein Science	●多階層構造生命科学 Laboratory of Multiscale Structural Biology ●細胞核ネットワーク（加納純子准教授） Laboratory of Nuclear Network Associate Prof. KANO, Junko ●感染病態システム Laboratory for Infection Systems ●客員 PI Laboratory of Visiting Scientists

05	附属蛋白質解析先端研究センター Research Center for State-of-the-Art Functional Protein Analysis	●機能・発現プロテオミクス（高尾敏文教授） Laboratory of Protein Profiling and Functional Proteomics Prof. TAKAO, Toshifumi ●分子創製学（高木淳一教授） Laboratory of Protein Synthesis and Expression Prof. TAKAGI, Junichi Prof. NAKAGAWA, Atsushi ●先端計測（宮ノ入洋平准教授、山下栄樹准教授、 岩崎憲治客員教授） Laboratory of Advanced Protein Characterization Associate Prof. MIYANOIRI, Yohei Associate Prof. YAMASHITA, Eiki Visiting Prof. IWASAKI, Kenji ●超分子構造解析学（中川教史教授） Laboratory of Supramolecular Crystallography Prof. NAKAGAWA, Atsushi ●計算生物学 Laboratory of Computational Biology ●データベース開発（栗栖源嗣教授） Laboratory of Protein Databases Prof. KURISU, Genji ●産学・国際連携 Laboratory of Visiting Scientists
----	--	--

◆論文発表の報告について◆

拠点事業を継続して運営していくためには、共同利用・共同研究によって多くの研究成果があがっていることをアピールする必要があります。そのために、共同研究員の皆様が発表された論文業績をデータとして蓄積していきたいと考えております。

つきましては、今後発表される論文には、前述したように謝辞 Acknowledgement の明記をお願いしますとともに、論文発表された旨をご報告いただきますようお願い申し上げます。

【報告方法】

(1)研究期間中に発表(accepted、in press も含む)された論文業績について

研究期間終了時にご提出いただく「研究成果報告書」様式に、論文業績を記入する欄を設けております。そちらにご記入いただくことにより、ご報告下さい。なお、「研究成果報告書」の様式および提出期限等の詳細については、当該年度終了後の毎年4月初め頃にメール通知いたします。

(2)研究期間終了後に発表された論文業績について

毎年6月頃に、過去に本拠点事業に参画された共同研究員（研究代表者）全員にメールによる照会をかけさせていただきます。上記(1)により報告されなかった論文業績について、ご報告下さい。